第１章、地区別バリアフリー基本構想策定にあたって

１の１、基本構想策定の趣旨

本市では、交通バリアフリー法に基づき、「千葉市交通バリアフリー基本構想」（平成１３年１１月）を策定し、さらに、バリアフリー法及び国の基本方針に基づき、「千葉市バリアフリー基本構想」（平成２０年８月）に改正、平成２３年３月の基本方針の改正（バリアフリー化の目標の再設定等）を受けて、千葉市バリアフリー基本構想を一部変更しています。

この千葉市バリアフリー基本構想が令和２年度末に目標年次を迎えたことから、改正バリアフリー法の趣旨を踏まえ、全面的なバリアフリー化の促進に向けた方針を示すとともに、重点整備地区の見直しや特定事業の設定に向けた検討を行い、市全域のバリアフリー化を促進するための、「千葉市バリアフリーマスタープラン」（以下、バリアフリーマスタープラン）を令和３年３月に策定しました。

バリアフリーマスタープランでは、バリアフリー化を促進していく地区（以下、促進地区）の設定にあたり、従前のバリアフリー基本構想における重点整備地区を基本とし、立地適正化計画における都市機能誘導区域を含むエリアとして、２２の促進地区を設定しました。

その中で、重点整備地区のモデル地区として選定されたＪＲ、京成稲毛地区において、具体的なバリアフリー化に向けた事業を位置づけるため、地区別バリアフリー基本構想を策定します。

以下に、千葉市バリアフリーマスタープランにおける促進地区の位置図があります。

１の２、基本構想の目標と位置づけ

かっこ１、目標

バリアフリーマスタープランにおける、「バリアフリー化の目標と基本的な方向」を踏まえ、本地区別バリアフリー基本構想における目標を以下のように設定します。

以下に、バリアフリー化の目標と基本的な方向のひょうがあります。内容は次の通りです。

１、安心して行動でき、いきいきとした社会参加ができる環境づくりを目指します。

社会参加への支援

まる１、駅から主要な施設までの主要な経路など、まち中の連続的なバリアフリーネットワーク化を図ります。

まる２、駅構内や駅前広場など、交通結節点でのバリアフリー化を進めます。

まる３、鉄軌道駅や乗合バス車両のバリアフリー化を促進します。

まる４、各種事業を整合させ、効率的なバリアフリー施策を実施します。

２、バリアフリーが大きな魅力となり、活力の源となるまちづくりを目指します。

都市の魅力づくり

まる１、建築物のバリアフリー化を積極的に進めます。

まる２、高齢者、障害者等が日常生活や社会生活において利用する施設を広く面的にとらえ、生活空間におけるバリアフリー化を進めます。

まる３、バリアフリーを重視した都市居住を促進します。

３、やさしさの文化をはぐくむまちづくりを目指します。

心のバリアフリー、意識の向上

まる１、バリアフリー体験学習や職員研修、高齢者、障害者等との交流などを積極的に推進し、市民のバリアフリーに対する意識の向上を図ります。

まる２、市民や関係者との協働により、障害への理解や配慮、手助け・声かけの動機づけとなるような取組みに努めていきます。

まる３、障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル（注釈後述）」を踏まえ、多様な利用者が安心して施設を利用できるよう、各施設設置管理者等におけるソフト対策や人的対応の充実を図ります。

４、連携と協働により、ともに築くまちづくりを目指します。

市民との連携、市民参加

まる１、高齢者、障害者等の社会参加と自立を支援するボランティアやNPO活動等の情報を一元的に提供するなど、市民の自発的・自主的な活動を支援します。

まる２、市民や民間等との連携や協力のもと、民間建築物等のバリアフリー化を促進させます。

まる３、市民参画により計画段階から利用者意見を取り入れる機会を設け、利用者の意向を踏まえた安全・安心のまちの実現を目指します。

５、全ての人にやさしいデザインの施設づくりを目指します。

ユニバーサルデザイン

まる１、高齢者や障害者だけでなく、全ての人のニーズに応え、使いやすい供用デザインの施設づくりを目指します。

６、都市景観の醸成と自然と共生する市街地環境づくりを目指します。

自然環境や都市景観との調和

まる１、公園、広場、水辺空間等、自然環境とのふれあいの場のバリアフリー化を進めます。

まる２、歩きやすく、自然にもやさしい透水性や保水性舗装を推進し、水循環やヒートアイランド現象の軽減等環境の負荷軽減も図ります。

まる３、バリアフリーの整備と道路緑化や電線類の地中化など景観整備との調和を図り、都市景観の醸成を図ります。

まる４、景観や自然環境に配慮し、安全で快適な歩行環境の創出を図ります。

７、社会背景の変化に合わせた継続的な改善を目指します。

スパイラルアップ

まる１、事業の進捗状況や社会背景の変化を踏まえ、さらに移動しやすく利用しやすいまちとなるよう、継続的な改善を図ります。

注釈

障害の社会モデルとは、障害は「社会的差別や抑圧、不平等」によってもたらされるものであり、「社会や周囲の環境の問題」であるという考え方。一方、個人モデルとは、障害を「個人側の機能障害の問題」として捉え、日常生活を送るために障害者個人が社会に合わせるという考え方。

かっこ２、計画期間

バリアフリーマスタープランでは、中間評価を令和７年度（2025年度）に実施し、その５年後の令和12年度（2030年度）を計画期間としています。それにあわせて、本地区別バリアフリー基本構想における計画期間を令和12年度（2030年度）とします。

かっこ３、位置づけ

市の上位計画である都市計画マスタープランや立地適正化計画を踏まえ、市のバリアフリー化を促進するための指針として、バリアフリーマスタープランを作成しました。

地区別バリアフリー基本構想では、バリアフリーマスタープランに基づき、重点整備地区を設定し、旅客施設及び車両等、道路、路外駐車場、都市公園、建築物、信号機等について実施すべき特定事業を定めます。そして、地区別バリアフリー基本構想策定後、法に基づき特定事業計画を作成し、事業の推進を図ることを目指します。

また、障害者差別解消法等の関連法の考え方を反映し、福祉や交通、都市整備等に関する関連計画や施策と相互に連携を図ります。

以下に、地区別バリアフリー基本構想の位置づけの概念図があります。

１の３、検討の進めかた

かっこ１、検討の流れ

地区別バリアフリー基本構想の策定にあたり、バリアフリーマスタープランでの検討内容や地区特性を踏まえ、重点整備地区を設定し、地区の課題や考え方を整理しました。また、特定事業の検討に向け、まち歩き点検により得られた施設課題を踏まえた事業設定を行いました。

以下に、検討フローの模式図があります。

かっこ２、検討組織や市民参加による活動等の目的と構成

昨年度に引き続き協議会を開催し、地区別バリアフリー基本構想の内容について検討しました。さらに、新たに地区ワーキンググループ（以下、「地区ＷＧ」）及び事業者ワーキンググループ（以下、「事業者ＷＧ」）を設置し、意見の収集や特定事業の検討を行いました。推進に係る体制や市民参加による活動の目的と構成を以下のように設定しました。

以下に、検討組織・活動の概要の図があります。内容は次の通りです。

１、協議会

活動目的

地区別バリアフリー基本構想を検討し、内容について承認を行う母体。

法及び条例に基づいて設置する。

参加者の構成

学識経験者・高齢者団体・障害者団体・施設管理者・事業者・行政関係者等

２、庁内会議

活動目的

協議会検討内容に関する事前調整・報告や、庁内で連携して取り組む施策に関する協議を行う。

参加者の構成

都市整備・道路・交通・観光・公園・福祉系等の庁内担当所管

３、地区ＷＧ、まち歩き点検ワークショップ

活動目的

特定事業としてバリアフリー化の実施を依頼する内容を検討するため、生活関連施設・生活関連経路を視察し、意見交換を行う。

参加者の構成

稲毛地区在住の高齢者・障害者等、学識経験者、視察施設の管理者

４、事業者ＷＧ

活動目的

市の取組みへの理解を促進するとともに特定事業の検討を依頼し、内容の調整を行う。

参加者の構成

重点整備地区の生活関連施設・生活関連経路に設定された施設の管理者

５、意見交換会

活動目的

地区ＷＧ及び事業者ＷＧにより特定事業案等に関する意見交換を行い、相互理解の促進を図る。

参加者の構成

地区ＷＧ及び事業者ＷＧの参加者

かっこ３、市民参加による検討の概要

かたかっこ１、まち歩き点検ワークショップ

まる１、開催の目的

地区別バリアフリー基本構想の策定にあたり、ＪＲ・京成稲毛地区における生活関連施設・生活関連経路の候補箇所でのバリアフリー上の具体的な課題や改善策を整理するため、市民参加による現地確認・意見交換を行う「まち歩き点検ワークショップ」を開催しました。

以下に、まち歩き点検ワークショップの様子の写真があります。

まる２、開催概要

まち歩き点検ワークショップを計２回実施しました。

以下に、開催概要のひょうがあります。内容は次の通りです。

日時

第１回、令和３年７月５日（月）、１３時から１７時

第２回、令和３年７月７日（水）、１３時から１７時

確認エリア・点検施設、１

ＪＲ稲毛駅から稲毛公園周辺

鉄軌道駅、京成稲毛駅

駅前広場、ＪＲ稲毛駅西口駅前広場

道路、市道

公共施設、稲毛駅前郵便局

集会施設、稲毛公民館

都市公園、稲毛公園

確認エリア・点検施設、２

モノレールあながわ駅から敬愛大学周辺

鉄軌道駅、モノレールあながわ駅

道路、市道/県道

公共施設、稲毛区役所

集会施設、穴川コミュニティセンター

文化・教養・教育施設、敬愛大学

確認エリア・点検施設、３

ＪＲ稲毛駅からこなか台公民館周辺

鉄軌道駅、ＪＲ稲毛駅

駅前広場、ＪＲ稲毛駅東口駅前広場

道路、市道

集会施設、こなか台公民館

大規模店舗、マルエツ稲毛店

まる３、参加者

以下の団体から各回28人にご参加いただきました。

以下に、参加者の概要のひょうがあります。内容は次の通りです。

千葉市身体障害者連合会、第１回、９名、第２回、３名

千葉市手をつなぐ育成会、第１回、１名、第２回、２名

特定非営利活動法人千家連、第１回、１名、第２回、２名

一般社団法人老人クラブ連合会、第１回、１名、第２回、０名

学識経験者、第１回、１名、第２回、１名

学生、第１回、５名、第２回、８名

関係行政機関、第１回、３名、第２回、５名

事務局、第１回、７名、第２回、７名

合計、第１回、２８名、第２回、２８名

まる４、意見概要

まち歩き点検での主な意見は以下のとおりです。

１、鉄軌道駅のバリアフリー

トイレへの視覚障害者誘導用ブロック、触知図、音声案内、緊急ボタンがありよい。（京成稲毛駅）

幅広の改札口だったので通りやすかった。（モノレールあながわ駅）

エレベーターがスルー式で車椅子でも使いやすい。（ＪＲ稲毛駅）

ホーム間の通路に踏切・段差があり、車椅子には危険。（京成稲毛駅）

一般トイレの入口に階段があるので使いにくい。段がすべて同じ色なので、だんばなを強調した方がよい。（モノレールあながわ駅）

ホームドアを設置してほしい。（ＪＲ稲毛駅）

２、駅前広場のバリアフリー

視覚障害者誘導用ブロックが連続しておりよい。（ＪＲ稲毛駅西口駅前広場）

路線が多く、便が良いターミナルなので、情報量が多いが、視覚的には整理されたわかりやすい表示である。（ＪＲ稲毛駅東口駅前広場）

視覚障害者誘導用ブロックに凹凸部分がある。（ＪＲ稲毛駅西口駅前広場）

バス待ちの列の路面標示と視覚障害者誘導用ブロックが近い位置になっており、ぶつかる危険性がある。（ＪＲ稲毛駅西口駅前広場）

街路樹が歩道の中央に植えられている。（ＪＲ稲毛駅東口駅前広場）

３、道路のバリアフリー

側溝がフラットで歩きやすい。（稲毛駅前郵便局から京成稲毛駅）

歩道にあまり凹凸がないため、車椅子使用者には利用しやすい。視覚障害者誘導用ブロックが連続的に設置されている。（ＪＲ稲毛駅東口からマルエツ稲毛店）

交差点部の巻き込み部分に段差があり、横断・縦断ともに勾配がきつい所があった。（ＪＲ稲毛駅西口駅前広場から稲毛駅前郵便局）

路肩が狭く、側溝もガタガタで、車椅子では移動しにくいため、側溝をフラットにした方がよい。また、側溝の穴は白杖が刺さってしまうため危険。（京成稲毛駅から稲毛公園・公民館）

４、建築物・駐車場のバリアフリー

視覚障害者誘導用ブロックが道路からでいりぐちから窓口まで連続して設置されているのでよい。（稲毛駅前郵便局）

スロープ設置など全体的にバリアフリー化されていた。（敬愛大学）

多機能トイレは広く、オストメイト対応設備が設置されており、温水シャワーも出る。（マルエツ稲毛店）

道路からのでいりぐち部分に凹凸があり、排水用のグレーチングなどがあるため車椅子での通行がしにくい。（稲毛公民館）

窓口付近の視覚障害者誘導用ブロックのそばにパイプ椅子が置かれていた。（稲毛区役所）

敷地境界部からエレベーターにかけて視覚障害者誘導用ブロックを設置した方が良い。また、エレベーターが屋外に設置されているため、２階の乗降口から２階の建物でいりぐちにかけても設置した方が良い。（こなか台公民館）

５、都市公園のバリアフリー

トイレ室内にはトップライトもあり、明るくてよい。（稲毛公園）

公民館付近のでいりぐちは段差があり、車椅子使用者にも、視覚障害者にも使いにくい。（稲毛公園）

トイレは和式ではなく洋式がよい。また、片手が麻痺している身体障害者には使いにくいため、ボタンを押すと一定時間水が出るような手洗いがよい。（稲毛公園）

６、人的対応・心のバリアフリー

車椅子でのバス乗降の際に運転手さんがとても丁寧に対応してくれた。かなり固定してくれたので安心して乗れた。（京成バス）

稲毛駅前郵便局ではあいさつや、声がけなどの人的対応がありよかった。

穴川コミュニティセンターの受付の人は理解があり、普段から適切に対応してくれている。

モノレールあながわ駅は駅員がおらず、インターホンのみの対応で誰も来てくれないことは聴覚障害者にとって大きな課題と感じる。

かたかっこ２、子育て世代へのアンケート調査

まる１、調査目的

ＪＲ、京成稲毛地区において、子育て世代の方々が抱えるバリアフリーに関する課題を把握するため、子育てひろば利用者へ「子育て世代向けアンケート調査」を実施しました。

まる２、調査概要

よく利用する施設やバリアフリーの視点から感じる良い点・改善してほしい点など、バリアフリーに関する設問を７項目設定し、８名（男性５人、女性３人）にご回答いただきました。

まる３、意見概要

子育て世代向けアンケートでご回答いただいた意見概要は以下の通りです。

１、よく利用する施設

ＪＲ稲毛駅、３７．５％

子育てひろば・いなげ、２５％

イオン稲毛店、１２．５％

ペリエ稲毛、１２．５％

稲毛図書館、１２．５％

２、よく利用する経路

京成稲毛駅からＪＲ稲毛駅西側周辺、２５％

ＪＲ稲毛駅西口駅前広場、１２．５％

ＪＲ稲毛駅東口駅前広場、１２．５％

ＪＲ稲毛駅東側からマルエツ稲毛店周辺、１２．５％

ＪＲ稲毛駅東側から稲毛区役所周辺、２５％

敬愛大学からモノレールあながわ駅、１２．５％

該当経路なし、１２．５％

３、利用施設のバリアフリーの視点から感じる良い点、改善してほしい点

ＪＲ稲毛駅

エレベーター、エスカレーターが整備されている。

子育てひろば・いなげ

授乳室、おむつ交換台がある。

入口にスロープがあるので、ベビーカーでも入りやすい。ドアが90度以上開くと止まるのもよい。

でいりぐち（外の門）が狭く、ベビーカーで入る時少し入りにくい。

ベビーカーを置くスペースが狭くて、ベビーカーを置きにくい。

イオン稲毛店

どの階の女子トイレにもベビーカーが入れる個室がある。

授乳・おむつ交換スペースの衛生管理に配慮が感じられる。

エレベーターがなかなか来ない。

ペリエ稲毛

トイレの個室にベビーチェアがあるので、子どもと一緒に入りやすい。

フードスクエアでいりぐちの扉が手動で重く、ベビーカーだと使いにくい。自動ドアは混んでいて、行き違いが難しい。

稲毛図書館

多機能トイレにおむつ交換台がある。

授乳スペースがない。

受付が上の階にあり、不便である。

経路

ＪＲ稲毛駅東側から稲毛区役所周辺は歩道が広く、段差もなく、ベビーカーでも歩きやすい。等

京成稲毛駅からＪＲ稲毛駅西側周辺に子どもと安心して歩けるような歩道を設置してほしい。等

４、自由意見

モノレールのベビーカー優先ゾーンに一般利用者が立っていることがあるため、表示をよりわかりやすくしてほしい。

ベビーカーでのバス乗降時に運転手の手助けを気軽にお願いできる雰囲気があるとありがたい。

京成稲毛駅最寄りのコンビニエンスストアの喫煙所を人通りの少ない場所へ変えてほしい。

京成稲毛駅最寄りのコンビニエンスストアが狭くて、ベビーカーでは入れない。

『京成稲毛駅前』のバス停留所が駅から遠いため、京成稲毛駅着のバス停留所があると良い。

かたかっこ３、意見交換会（地区ＷＧ、事業者ＷＧ、合同意見交換会）

まる１、開催の目的

地区別バリアフリー基本構想の策定にあたり、地区ＷＧで実施した「まち歩き点検ワークショップ」での意見を踏まえ、各施設設置管理者等に特定事業として掲載する対応方針を検討いただき、その内容についての意見交換を行い、相互理解の促進を図りました。

以下に、意見交換会の様子の写真があります。

まる２、開催概要

意見交換会を以下のとおり実施しました。

開催日時

令和３年１２月９日（木）、１０時から１２時

開催場所

稲毛区役所、３階、講堂

まる３、参加者

以下の団体から合計４４人にご参加いただきました。

千葉市身体障害者連合会、９名

千葉市手をつなぐ育成会、２名

特定非営利活動法人千家連、１名

一般社団法人老人クラブ連合会、１名

東日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ稲毛駅）、２名

京成電鉄株式会社（京成稲毛駅）、１名

千葉都市モノレール株式会社（モノレールあながわ駅）、２名

医療法人社団しゅんしん会（稲毛病院）、１名

学校法人 千葉敬愛学園（敬愛大学）、１名

イオンリテール株式会社（イオン稲毛店）、１名

千葉市（稲毛区役所、穴川コミュニティセンター、保健福祉センター、こなか台公民館、稲毛公民館、稲毛公園）、４名

学識経験者、２名

学生、９名

協議会公募委員、２名

事務局、６名

合計、４４名

まる４、意見概要

意見交換会での主な意見は以下のとおりです。

項目１、公共交通

項目１の１、人的対応・心のバリアフリー

市民

駅員研修とは、どの様な研修を行っているのか。知的障害者への対応も含めた研修があるのか。昨今、知的障害者でも鉄道・バスを利用して仕事に行くことも増えているので、知的障害者への対応も含めた研修も取り入れてほしい。

座学研修だけでなく、障害当事者も研修に参加し、実践的な研修とすることが重要である。目に見えない障害についても理解を深めていただきたい。

知的障害者や精神障害者への対応訓練、教育を受けた丁寧な対応をされていると感じた。

筆談具が設置されていても、災害時などに混乱、混雑している中では聴覚障害者への対応が難しいのではないか。筆談だけでなく、スマートフォンなどでも情報提供内容がわかるようにして頂くと良い。

階段の通行位置が全駅で左右統一されることが望ましい。

事業者

駅社員の教育・研修については、車椅子使用者への対応等についての研修や、知的障害者への対応も含めた研修も実施している。

障害者のかたをお呼びして講演会などを開催している。また、障害者雇用を進め、その方々と関わりながら研修を実施している。

サービス向上として、駅社員のサービス介助士資格の取得推進を図っている。

ＬＥＤ表示板を設置しているが、異常時の案内について全ての情報を発信出来ているわけではない。

階段の通行位置は各駅の利用者の状況や人の流れを踏まえて設定しているものだが、現状を確認して検討したい。

項目１の２、案内設備

市民

無人駅では聴覚障害者は駅利用に困っている。券売機などで困った時、駅社員対応は音声（インターホン）のみであり、聴覚障害者にとっては対応がわからない。特に夜は駅利用者が少なく、周囲に助けを求めることができず、聴覚障害者だけがサービスを受けられない状況なので、対応を考えてほしい。

事業者

課題として認識している。なお、千葉モノレールの駅の場合においては、事前に千葉都市モノレール会社へ連絡をもらえれば、駅社員が無人駅へ出向いて対応することは可能である。

項目１の３、トイレ

市民

車椅子使用者用トイレについてはいくつか事業として出ているが、オストメイト対応設備の設置については対応いただけるのか。ほとんど整備されていないという話を聞いている。

事業者

千葉モノレールの場合、多機能トイレ内にオストメイト対応設備が設置されている。未設置個所についても、改修にあわせて順次整備する。

項目２、建築物

項目２の１、トイレ・階段（商業施設）

市民

トイレの非常用ボタンが小さくわかりにくいため、押しボタンを間違えてしまうという意見が出ていたので対応を検討してほしい。

外階段が広く、中央のみに手すりがある。しかし、中央部は自転車用のスロープがあり、自転車利用者がスロープを利用している間は手すりを使用できない。中央部だけでなく、両サイドに手すりがあるとよい。

事業者

中期的にトイレは和式から洋式への改修を進めるため、その中で検討したい。和式が必要という意見もあるため、一定数残しながら改修する予定としている。

外階段については、本意見を設備担当者に伝えて対応を検討したい。

項目３、都市公園

項目３の１、トイレ

市民

公園のトイレが綺麗になる話がありうれしく思った。綺麗なトイレがあるかどうかで、当該公園に行くことを決めているため、トイレは大事である。

特にコロナ禍では、手洗いを頻繁に行うことから重視している。使い勝手の良いトイレになることは良いと思う。

注釈

上記意見概要は、ＪＲ・京成稲毛地区の生活関連施設全てに該当するものではありません。